

自由民主党

2013年7月に慰安婦像が設置されたが、その後、民間ベースで様々な交流を

踏まえながら関係改善に努めてきた。そのかいあってか、2020年9月、グレンデール市議会にて、東大阪市に対する感謝状が民間

団体に手渡され、コロナの影響がなければ9月末から10月初旬にかけて訪れる予定であった。本書は、グレンデール市にある日本庭園

(松声庵)で活動を行っている方がお持ちいただくことになっている。姉妹都市の交流で来ていただいた方々と、市の主導で交流式

典ができないか。また、東大阪の国際交流協会の役割などはどう考えているのか。市長 海外の方へおもてなしは、必要であるが、どの

ように行うかは、来訪目的などから判断する。おもてなしをする際には、国際交流協会の方々にも御協力をお願いしたいと考えている。

公明党

代表質問 安田 秀夫

個人質問 松川 啓子

コロナ克服へ総力を挙げよ！ PCR検査・ワクチン接種体制など命を守る対策に万全を期せ！！

―コロナ禍の保健所体制整備について―

問 新型コロナウイルス感染症は、世界的に留まることなく拡大しており、我が国でも第3波を迎えていると言われている。医療現場の大変厳しい状況を考えて、市としても、より緊張感を持って対策にあたっていかねばならない。そのことを踏まえ、保健所の体制確保について伺う。先の定例会でのわが党の質問に対し、健康部長より「3医師会とも協議して医療提供体制を拡充したい」旨の答弁をされ、PCR検査の可能な医療機関数が約100箇所となり、1日の検査可能数が400程度可能になった。コロナの状況を考慮し、保健師を10月1日付で7名採用し、来年4月1日には5名採用が予定されていると聞

く。さらなるピークを迎えた場合や、今後、新型コロナウイルスワクチンが国で承認された時の予防接種の体制確保など、市民一人ひとりの生命を守るためにどう対応されていくのか、市長の決意を伺う。

市長 新たな爆発的な感染拡大や今後、市民の皆さまに接種される予定の新型コロナウイルスワクチンの予防接種についても迅速な対応が求められることから、全庁的な市の総力を結集し、市民の生命を守るために全力で対応してまいります。

―豪雨災害での雨水対策工事について―

問 本市では今年度で終了する国の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の一環として増補事業を早期完成に向け集中的に進めている。国は今

後も更なる防災減災対策を進める必要性から新たに5か年計画を策定し、第3次補正予算からスタートさせる方向である。以前、建設水道委員会ではわが党より本市の進める総合雨水対策アクションプランを国土強靱化地域計画の中に新しい事業として盛り込み、雨水対策を着実に進めることを要望した。そうした手法で、例えば、平成29年度以降途絶えていた校庭貯留工事の計画再開を含め、その他の雨水対策工事について、当局の見解を伺う。

下水道部長 下水道事業での豪雨対策の中心である増補事業については、現在、「3か年緊急対策」に位置付けられている「新岸田堂幹線」を早期に完成できるように努力するとともに、引き続き「5か年計画」に位

置付けられるよう国・府と協議し、一日でも早い供用開始を目指していく。また、寝屋川南部地下河川に接続する新大運北放流幹線の整備及び府の流域下水道に接続するほかのバイパス管の検討も進めてまいります。

妊婦健診の受診回数拡充について 本市では現在、12万円を上限に14回、多胎児は追加2回の受診が可能となっている。これまでの民生保健委員会や決算審査特別委員会、予定日を超えての出産など、この回数以上に受診された場合の支援を訴え、担当部局から「その実態掌握を行っている」との答弁があった。14回を超えての健診は、すべて自己負担となる事から、この実態調査を受け、速やかに具体的な支援策を講じるべきであるが、見解を伺う。

コロナ禍で奮闘する事業者



この結果を踏まえ、15回目以降の助成について関係部局と調整していく。中小企業支援等の相談窓口設置について グローバル化やインターネットの普及、事業承継や人材不足に加え、今年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって、市内の小企業は大きな打撃を受けている。本市では影響を受けた中小・小規模事業者を対象に5人の中小企業診断士による中小企業診断士による経営相談窓口を開設し、中小・小規模事業者に対して、国による支援策の活用や、資金繰り等に関する相談を行っている。来年度以降も市内事業者の事業継続のため、きめ細やかな支援を行い、引き続き本事業に取り組みでまいる。